

新潟IT大会

芝 忠

2月8日、新潟市内のホテルイタリア軒で開催された「新IT経営全国会議」は、IT経営応援隊（経済産業省推進事業）の全面協力のもとで、全国から400人の参加者で賑わいました。

本大会は、1999年から開催されている「異業種グループネットワークフォーラム」が次年度へ繰り越したため、IT活用による中小企業経営の優れた事例を研究するために企画されました。ITが言い古されている今日、新IT活用がどれだけ新たな討論対象となるのかが注目されました。分科会（ワークショップ）は6つで、

- ① SSNET（石油販売店）で自立と共存
- ② 21世紀を勝ち抜く中小企業のIT活用戦略
- ③ 強靱な企業体質作り、欠かせぬ新IT経営
- ④ 儲かる情報システムへの取り組み
- ⑤ インターネットと衣食住
- ⑥ インターローカル（地方都市の戦略を考える）でした。

筆者は第2分科会に参加しましたが、上村孝樹氏（元日経コンピュータ編集部記者、経済産業省IT経営応援隊・IT経営百選委員会委員長）の講演が実質的な本大会の基調講演のようなものでした。氏は「供給過剰市場下におけるビジネス戦略とIT活用」を問題意識として取り上げ、中国指向でも困難、伝統産業や地域産業も危機、大手企業も発想の転換がままならない。市場構造の変革に対応し、日本の強みを活かすには

- ① 中・長期視点を重視する
 - ② 規模の拡大よりもビジネスの継続性を重視する
 - ③ 強みを際立たせるために絞り込む
 - ④ 人材力を武器とする
 - ⑤ コラボレーション力を高める
 - ⑥ 社会的存在としての価値を高める
- を指摘し、具体的な事例を百選の中から次々に紹介した。

ホームページを活用した事例として、倒産の危機から脱却して一躍優良企業に変わった3業種3社をあげています。

プレス関係:フルイチプレス(金型設計製造)、

繊維製品:レスター(オーダーメイドTシャツ、トレーナーポロシャツの製造販売)、

メッキ:三和メッキ工業(個人から法人までの「こだわりのめっき」を製造するお手伝い)の業種で、いずれも赤字受注の従来の取引先を断り、会社のコンセプトを思い切って全面的に提案する内容に変換してから、全国から引き合いが殺到したということです。これなどは、量産型かつ低価格の親企業からの取引を思い切って中止して、個々の多品種少量型の新規顧客開拓に転換した典型的な事例です。実際には軌道に乗るまで、大幅なリストラ、社員への説明、会社一丸となった取り組みなど厳しい条件に打ち勝つての成果とのこと。一般に、様々な相談が多い中小企業は新規受注も増える傾向にあります。他社で出来ない困難な課題を見事解決してしまうことにより、当社の実力も上昇し、クチコミでさらに仕事が増えるという好循環になります。従来ITというと、社内的な経営改善が主力の投資として見られてきましたが、顧客満足度を確実に上げるための各種の措置、なかんずくホームページを活用することにより、顧客側の現代の情報戦略に合致することになります。会社のホームページやカタログがお座なりに作られていたり、逆に高価な作りでも顧客から見ると訳の判らないPRだったりする例もあります。筆者は仕事から自治体のホームページを参考にしますが、確かに必要とする統計や情報がないところも多いです。この情報化時代に、イライラしますが、自治体は1つしか存在しないので、その地域情報を他の自治体に求めるというわけにもいきません。その点では企業はどこかの会社が対応可能であれば顧客はそこに集中します。IT時代の企業の顔づくりが極めて重要だというわけです。

会場の一角では企業展示が行われ、22小間、19社の出展、11社のプレゼンテーションが行われビジネスマッチングが開催されました。今回は富士通グループが多数参加しました。

大会での来賓挨拶の中で新潟市長が、人口81万人で政令都市を目指すとともに、環日本海圏を強調しました。ロシアの極東地域が近年景気上昇していることと、中国東北部との交流が重要となっていることを挙げていました。また新潟県全体では、近年、豪雪や地震、停電などでイメージダウンしていますが、新潟市自体は2月上旬の季節で全く雪がなく意外でした。東京から2時間弱で来ますので、もっと北の玄関口のアピールが必要だということでした。了

産学官交流サロンのコーナー

新サロン第1回西湘サロンの報告

島津俊之BC

去る3月13日(月)18:00～第一回西湘サロンを開催いたしました。当サロンは先発の3サロン(横浜、川崎、横須賀)と同様に「個人に着目した常設の産学公サロン」を目指しています。約一年前から準備を進めてきましたが、多くの課題がありました。

第一の課題は、安い利用料で集まりやすい常設会場の確保です。これは地元「瀬戸建設(株)殿」の所有するビル内の「**あいおい損保・小田原支社3F会議室**」(小田原市城山1-6-22)を利用させていただくことになりました。

第二の課題は、地域の方々の賛同が得られるかどうかです。地元の県出先機関(西湘地域県政総合センター、足柄上地域県政総合センター、産業技術総合研究所工業技術センター)、小田原商工会議所、西湘異業種交流会、青色申告会、地元商店街、神奈川新聞社 等々の賛同を頂きました。

第三の課題は、開催当日の運営スタッフの確保です。この点についても瀬戸建設(株)殿の全面的協力が得られることが可能になりました。

お陰様で開催当日は地元企業・商店の方々を始め、県・商工会議所などの公的機関関係者、大学関係者、マスコミなど幅広い方面からの参加を得て大盛況裏で開催できました。当日のスピーカーは**瀬戸建設(株)社長・瀬戸良幸氏**にお願いし「**医・福・住の連携事業を核として経営革新に取り組んだ経緯**」をお話いただき、全員参加のミーティングを行いました。

当面、隔月の第二月曜日開催を計画しています。**第二回は5月8日(月)18:00～小田原市の露木工作所代表・露木孝伸氏「伝統工芸から出発した新分野の木製品開発」**(仮題)を予定しています。以降は7月10日、9月11日、11月13日と続きます。各方面からの多数の参加を期待しております。お問合せ等：045-633-5142 異グ連 西湘サロン代表幹事 島津俊之

第13回よこすかサロン報告 八幡氏

3月の定例会では、弁護士・弁理士の石下正樹先生から、テーマ「ビジネスに直結する実践的法」として、債権回収策などの事例紹介を頂きました。質問が飛び交い、適切な説明にさすが専門家と唸らせられました。

次回(14回)は5月の日程調整中ですが、テーマは「**スターリングエンジンの製造提案**」を予定しております。

問合せ：横須賀サロン代表幹事

八幡敬和 045-633-5142

NPO 産業クラスター研究会

鶴野省三 046-836-6785

尾上町サロン

開催日：毎月第一・第三金曜日17:30
(4月7日、21日、5月19日、6月2日、16日、7月1日、15日)

場所：神奈川中小企業センタービル5F
かながわ異グ連事務所

会費：500円

お問合せ：045-633-5142 異グ連
尾上町サロン代表幹事 芝、鈴木

<おしらせコーナー>

中小企業政策研究会

【日時】平成18年4月20日(木)18:00～20:00 【場所】神奈川中小企業センター13階2会議室

【内容】『中小企業向けの新しい会社法ポイント』 【講師】神奈川中小企業センターBC 相楽守氏

【主催】中小企業団体中央会、雇用能力開発機構、中小企業家同友会、神奈川異グ連

【参加費】1,500円(資料代、会場費) 【問合せ】045-633-5142 代表幹事島津俊之

主要ポイント10か条(相楽氏より)

- 1：有限会社の良さを持ち込むが、有限会社をなくし「株式会社」とする。
- 2：取締役は1人でも良い(有限会社の良さを持ち込む)。会社組織形が39種類選択制。
- 3：会計参与(公認会計士・税理士)をおくことができる。
- 4：会社設立しやすくなる。資本金は1円でもOK(しかも5年の時限ではない)
- 5：同様に、設立時「株式払込金保管証明書」は要らなくなり、預金残高証明でOK
- 6：同様に、類似商号が同地域でも使える。同番地でなければOK。
- 7：利益配当を年に何回でもできる(ただし純資産300万円以上確保は必須条件)
- 8：色々な種類の株式が発行できる(種類株式の発行で企業防衛策をとりやすく)
- 9：企業再編をしやすくする。(但し三角合併などは1年後平成19年5月より施行)
- 10：合同会社や有限責任組合をつくることことができる。出資割合と配当割合は別に、等々をお話します。

ふるさと再発見の活動家を養成する講座です！

真野 学氏

「神奈川・横浜ふるさと講座2006」が4月(第一回は4月15日(土))～12月の毎月1回(計9回)開催されます。テーマは「神奈川らしさ、横浜らしさを歴史から学び、未来の新しいふるさと像を創出する」で、受講生には修了論文が課せられ、優秀作品には懸賞として50万円が贈られる。

講座の内容は、第一部(講演と歌のサロン)、第二部(懇親交流会)からなり、講師は地域のコミュニティリーダーが担当する。受講料は毎回第一部3000円、第二部5000円の予定。詳細はTEL045-322-6186、FAX045-312-1862 “**かながわ県民活動サポートセンターNO97今の会**”講座委員会へ問い合わせてください。

かながわ異グ連の会員グループやプロジェクトの状況

‘85神奈川異業種交流プラザ (K I K) 改変

吉池BC

2月16日K I K定例会において、「K I Kの新たな運営方向について」話し合われた。これは前々から出ている課題であったが、主要メンバー15名の出席のもとに、下記の最終結論を出した。

1. 現メンバーでの異業種交流の使命は果たしたので、K I Kは一旦解散し、新たに懇親会を発足させる。
2. K I Kの今後の運営については、K I Kの中で別途活動している、「**次世代経営幹部会**」にゆだねる。

K I Kは1985年に誕生し、今年で21年を迎えた。K I Kの名称の‘85は1985年をあらわしているという。この年にG5で「プラザ合意」が発表され、ドル安円高が急速に進みバブル景気につながって行った。そしてそのバブルの崩壊と共に「失われた10年」といわれる長期に亘る不況と停滞に見舞われ、ようやくこれを脱するところまで来た。この間K I Kは異業種グループとして継続的に、しかも活発に活動してきた。

定例会や懇親会の中での会員の話では、「米沢電気工業会」など他のグループとの交流会や、会員企業の見学会などが非常に役立ったという。また先輩の会員などに教わる事が多く、波乱に富んだ21年間を乗り切ることができたという人もいる。当時若かった経営者の中には、社長業を卒業された人、またそろそろ卒業する人もいる。ところが入会する若手が少なく、世代交代がなかなか進まず、毎年平均年齢が高くなっている状況であった。

実は筆者は去年なかばに、K I Kの事務局員になったばかりで、歴史や状況の変化などを語る資格はないが、私見を述べれば、組織は20年も経つと停滞してくる、そのような意味で、一気に世代交代を図るのも、またよい結論ではないかと考えている。

第4&5回・国際交流支援協議会

岡田めぐみ氏

3月4日(土)JAICA 横浜にてアメリカ大学進学セミナーを行いました。Trans Pacific Hawaii College (トランス・パシフィック・ハワイカレッジ) 事務局長をハワイより招聘し、アメリカの大学進学情報を詳しくご説明いただきました。

また同日、餃子パーティを参加者38名で行いました。皮作りからの手作り餃子や、韓国人講師によるチヂミ作り。参加された方は、しっかりと料理を覚えて帰りました。

4月1日(土)春パーティー・イースターパーティーを行いました。今回はキッズイースターも1時間加わり、12名の子供達がイースターエッグ作りに挑戦しました。ゲームやお料理作りも行い、キッズお母様方にお手伝いいただきながら楽しく進行できました。キッズイースター終了後も引き続き、子供達とともに参加者25名で美酒・美料理で春のイースターパーティーを祝いました。

次回、**国際交流パーティは、6月3日(土)**を予定しています。 **国際交流支援協議会理事長 岡田めぐみ**

シフト21

有村BC

「シフト21」は経営変革を目指す企業と人の交流を図るグループで、業種・業態を問わない幅広い交流を目的として、原則第二火曜日に定例会を開催しています。

4月定例会は4月11日(火)午後6時半から神奈川県民センターで、当会員中本正治氏に中小企業でも低コストで比較的短期間で容易に取り組める「**エコアクション21**」環境マネジメントシステム認証・登録についてお話をいただきます。

5月定例会は、5月9日(火)に張亨氏(理化学研究所フロンティア研究員、医学博士)に「**健康食品、サプリメントの選択方法(仮題)**」についてお話いただきます。

シフト21ではゲストの皆様の参加を歓迎しております(初回参加は無料)。お問合せは有村までお願いいたします。(hda00467@nifty.com)

日韓ビジネス協議会(第62回(3/23)の報告)

高橋BC

- 「韓国企業紹介／(株)K. Sインダストリー」・・・課長代理 李 明姫氏
 - ・主業務は製鉄および産業機械の設計・製作である。今回は新事業のゴルフスイング映像システムの「スイングチューター」を中心に説明された。従来のシステムに比べ構造がシンプルで操作が簡単、連続、静止画、飛距離、角度、ボールスピード表示、正面、側面、など5種類の画面が選択できる。ビデオ&CD録画もできる。
- 「2006年韓国の経済見通し」・・・韓国中小企業振興公団 東京事務所 課長 鄭 進 氏
 - ・韓国国内経済概況、1) 8. 31不動産対策⇒消費および建設投資にマイナスの影響。2) 金利および株価の上昇⇒設備投資に影響、消費回復が期待される。3) 消費および投資の改善、4) 民間投資事業の拡大 等で、景気が上昇して年末までにはGDP成長率が4%程度になる見通しである。
- 「日韓指導者友情の集い」の参加報告・・・事務局 高橋導徳氏
 - ・友情新聞社の末廣氏の招待で3月1日「世界超宗教超国家連合の集い」に参加した。国連改革、中東問題、韓半島の統一、東アジア共同体などに取り組む。韓国413名来日、日本からも同程度の参加で盛大であった。

*****第63回定例ミーティングは”日韓ビジネス協議会の総会“になります*****

日時：**4月19日(水)**16：30～17：15定例会(総会) 17：30～19：30懇親会「だんまや水産」

場所：神奈川中小企業センタービル5階 会議室

関心ある企業の参加を歓迎致します。TEL：045-311-0094 MAIL：mtakahas@tb3.so-net.ne.jp 高橋道徳

まんてんプロジェクト、JASPA関係

千田BC(JASPA 社長)

- 3月28日にまんてんグループで石川島播磨重工業無工場の見学会を実施した。参加者は21名と盛況であった。JAXAの見学会はこれまで何回か実施したが大手民間企業の見学会は今回が初めて。普段は見られないジェットエンジンの組み立て現場などを特別にまんてんグループに公開していただいたもの。
- 「商工ジャーナル」3月号に(株)JASPAの記事が大きく掲載された。これを見て、興味を持った会社がJASPAを訪問
- JASPAでは、三次元測定の業務が産総研との連携により動き出している。またJASPAでは、新規事業として機構関係、電機電子関係などの設計を受託することとし、機構設計の受託を開始した。
- JASPAが中心となって、まんてんグループや大学が参加し、産学連携により小型飛行機用の電動エンジンを開発するプロジェクトをキックアップした。中心は東京工業大学。

第二回まんてん全国大会 **「宇宙航空産業全国中小企業地域連携シンポジウム」**

- 1) 日時: **2006年4月13日(木)** 午後1時30分から5時30分まで。その後懇親会
- 2) 場所: **横浜グランドインターコンチネンタルホテル 3F モナコ** 参加費: 無料
- 3) 内容(予定、講師等は交渉中)
 - ① 基調講演: 日本の航空機産業の概況について、(社)日本航空宇宙工業会 堀口幸一氏
 - ② 各地の活動事例発表とパネル討論: 北海道宇宙科学技術創製センター・伊藤献一氏、栃木航空宇宙懇話会・出射聡明氏、JASPA(株)・千田泰弘氏、次世代航空機部品供給ネットワーク・田中弘一氏、ウイングウイン岡山・安東茂氏
コーディネーター: 神奈川県産業総合技術研究所・唐澤志郎氏
- 4) 懇親会: 全国大会終了後、まんてんグループ会員企業の(株)山内製作所が創立40周年パーティを同じ会場で開催するのでこれに合流して懇談会を行う。
- 5) 主催: まんてんプロジェクト 6) 後援: (独)宇宙航空研究開発機構、(社)日本航空宇宙工業会

論壇**PUSH と PULL**

八幡 敬和氏

英和辞典によれば、**PUSH** と **PULL** は対比語で **PUSH** は「推す、推進する」と訳し、**PULL** は「引張る」となっている。別に押そうと引こうと大した違いはなさそうで、昔から「押してダメなら、引いてみる」という諺があるように扉でも押してダメなら引けばよいので、目くじらを立てるなど異議もあろう。いずれにしても、最近のドアには押・引の無表示が多く、深夜の静寂を破るものになっている。

西洋の鋸は **PUSH** で、日本では **PULL** でなければ、木は切れない。全く正反対である。大相撲では外人も **PUSH PUSH** と人気が高いが、**PULL** の人気は今ひとつである。

西欧の山岳鉄道では機関車が後ろから客車を押し上げ、下るときはそのまま機関車がバック運転でストッパー役になり重力で客車が滑り落ちないように下から受け止めている。日本の機関車は常に先頭に立って客車を引き上げており、登り下りとも客車をぶら下げている格好である。連結器の性能が優れているからかというだけの理由ではなさそうである。平地を走る特急列車は西欧では先頭と最後部に機関車があって先頭は客車を引張り、最後尾は推進とブレーキ運転に徹している。日本やアメリカでは先頭に機関車が2両重連し、もっぱら牽引専門である。

ビジネスの世界でも日米は **PULL** 型が多く、リーダが引張ることがマネジメントの基本のように考えられている。西欧では部下にやらせてリーダは彼らの力に支えられている。部下が **PUSH** する能力次第で成否が左右される。私は、かつて企業で合理化推進事務局なる組織に何年もスタッフとしてラインを **PUSH** してきたが、**PULL** しか知らない未経験の時代は職務分析とか職務評価という知識・ノウハウの啓発ではライン管理者を **PULL** する場面があった。そうすると彼らが理解してくれたのか不安になる局面に立たされ、淋しい思いを味わったことがあった。**PUSH** していれば、誰が不都合・不具合なのか乱れが分かりやすいので安心であった。

例えが適切かどうか知らないが、リヤカーでも引張っていると積荷が落ちても気づかずに行ってしまふことがあるが、反対に押していると荷台が丸見えなので荷崩れに直ぐ気がつく。西欧の山岳鉄道はそういう意味でお客本位なのかも知れない。しかし、特急列車のように先頭と最後尾の機関車にサンドイッチされた客車は安全なのかも知れないが、同時に引張り役と後押し役にぐいぐいやられたのでは、自由度がなく息詰まるように思えてならない。**PULL** と **PUSH** が適当に交互に使われてこそがマネジメントに必要なのではないだろうか。

異業種交流や新連携のコーディネータにも **PULL** と **PUSH** の組み合わせを要求されることもかくあるべしと感じている昨今である。

以上

ご投稿を歓迎いたします。かながわ異グ連事務局 tel, 045-633-5142 fax, 045-633-5194 芝、八幡、島津(龍)、杉本

(広報) mail onogawa@hkg.odn.ne.jp 小野川